

かわにし

議会だより

第107号

2011

10.15



22年度決算

- 財政調整・町債管理基金を積み増し … 2
- 緊急質問 見過ごせない教育長不在 …… 9
- 原発事故問題など5議員が町政をただす … 10

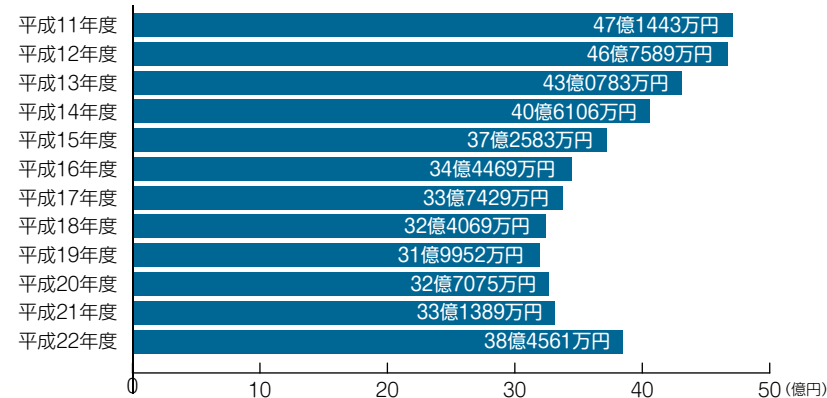
ずっしり重いぞ

玉庭小学校稲刈 9Pに関連記事



平成22年度 7137万円の事業費で工事が進められた三枚床道還線。一日も早い全線開通が望まれる

地方交付税の推移



国からの地方交付税は、平成11年度をピークに国の三位一体改革もあって、平成19年度まで単年度にして約15億円も減額された。平成20年度から政権交代もあって増額に転じた。

表は、交付税から公立置賜総合病院分を差し引いた、本町純粹分の地方交付税総額である。

地方交付税の推移

平成22年度主な事業

①町道整備事業	1億9575万円
三枚床道還線	7137万円
北郷八ツ口線	2999万円
町道舗装(オーバーレイ)	1983万円
町道側溝整備	3318万円
②緊急雇用創出事業	9097万円
③新川西中学校整備事業	5161万円
④基金管理事業	7500万円
子育て支援基金	2500万円
起業支援基金	2500万円
人材育成交流基金	2500万円

平成22年度決算の特徴は、次のとおりである。

①実質単年度収支は1億7742万円の赤字となり、財政調整基金に1億3423万円、町債管理基金に1億円を積み増した。

②最大財源の地方交付税は48億3285万円(公立置賜総合病院分を除くと38億4561万円)、前年比10・0%(4億3747万円)増となり3年連続の増額となった。

③町税は景気低迷の影響から12億7989万円、前年比3・8%(5079万円)減となった。

④投資的経費の普通建設事業は8億7926万円、前年比34・7%減となった。

⑤町の財政指標は、国が示す財政健全化法の基準をクリアしている。

また、県の基金を活用した緊急雇用創出事業では、新たに68人の雇用機会を生み出した。平成23年開校の川西中学校の改修に5161万円。L教室など、整備を行った。

地方交付税3年連続増額

9月定例会のあらまし

9月定例会が9月6日から26日までの21日間の会期で開催されました。

第1日目に、財政健全化法にかかわる報告2件、一般会計補正予算専決処分の承認、工事請負契約の締結2件を可決した後、条例1件、平成22年度5会計補正予算を一括上程し、常任委員会、予算特別委員会にそれぞれ付託しました。さらに平成23年度8会計決算認定を一括上程、決算特別委員会を設置し、付託しました。

第2日目に、一般質問を行い5議員が原発事故問題などを取り上げ、町政をたどりました。

第3日目に以降に、常任委員会、予算特別委員会、決算特別委員会分科会を開き、議案を審査しました。

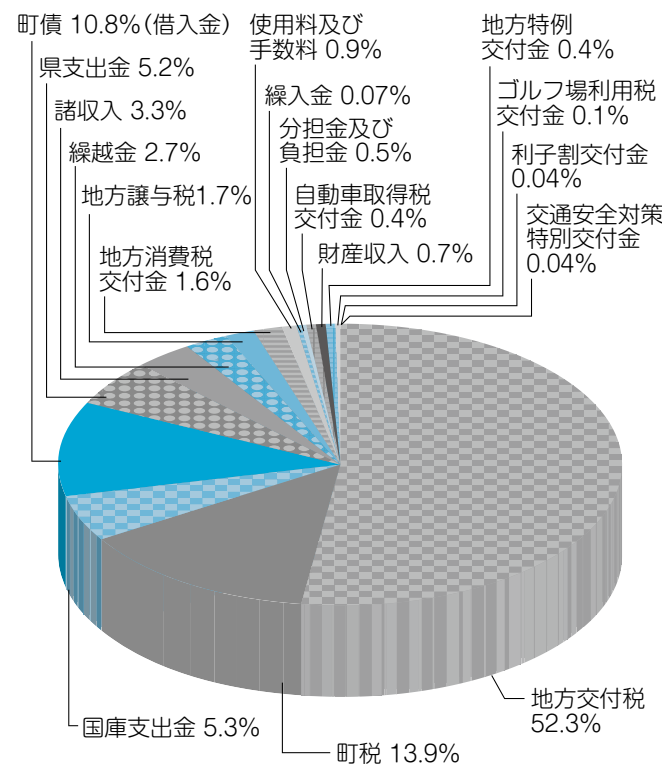
最終日に、予算特別委員会、決算特別委員会の採決後、本会議を開き、教育長不在について緊急質問があり、その後付託した14議案を原案どおり可決しました。また請願1件を採択し、意見書2件を可決しました。

一般会計決算

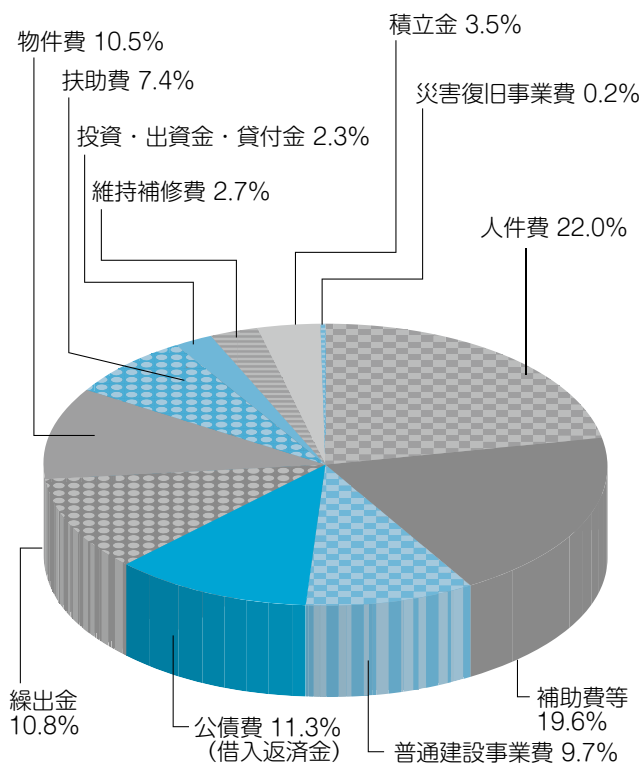
歳入

歳出

【歳入決算構成】



【歳出決算構成(性質別)】



92億2237万円

90億4586万円

高橋 繰越欠損金を建設改良積立金で補填しているが、①積立金の目的は②建設改良積立金を取り崩すことの根拠（公営企業法等）は③3年程で累積赤字が解消できると思われるが、なぜ今期に行ったのか。

高橋 ①純利益を将来の建設改良を目的として積み立てる②公営企業は積立金を欠損処分に充てることができ③積立金と繰越欠損金が混在しているので整理するように、経営指導をコンサルタン

水道・繰越欠損金の処分は

高橋 忠議員

気を緩めず財政規律を守れ

佐々木 賢一 議員

総括質疑



未来を担う子どもたちに誇ることのできる町をつくる

決算特別委員会は、常任委員会を単位とする2分科会で構成され、一般会計など8会計の決算を審査しました。ここでは、総括質疑、分科会審査での質疑、町長に対する質疑を要約してお伝えします。

平成22年度各会計決算

会計別	歳入	歳出	議決の内容
一般会計	92億2237万円	90億4586万円	全員賛成により認定
国民健康保険事業特別会計	18億4002万円	17億9126万円	全員賛成により認定
下水道事業特別会計	6億6349万円	6億4899万円	全員賛成により認定
老人保健特別会計	223万円	223万円	全員賛成により認定
農業集落排水事業特別会計	8217万円	7765万円	全員賛成により認定
介護保険事業特別会計	14億6935万円	14億5559万円	全員賛成により認定
後期高齢者医療特別会計	1億5599万円	1億4549万円	全員賛成により認定

水道事業会計	収益的	5億1902万円	4億8614万円	全員賛成により認定
	資本的	9565万円	※1 2億2872万円	

※1 不足する1億3306万円は繰越工事資金、消費税調整額、損益勘定留保資金で補てん

合計	135億3562万円	131億6707万円	
----	------------	------------	--

財政指標 平成22年度一般会計等健全化判断比率

指標	実質赤字比率 一般会計の赤字額が※2標準財政規模に占める割合	連結実質赤字比率 全会計の実質赤字額が標準財政規模に占める割合	実質公債費比率 全会計の償還額が標準財政規模に占める割合	将来負担比率 将来一般会計から負担されると想定される金額等が標準財政規模に占める割合	公営企業会計に係る資金不足比率 資金不足の額が事業規模に占める割合
川西町	0%	0%	15.2%	128.8%	0%
国	早期健全 14.43%	19.43%	25.0%	350.0%	20.0%
	財政再建 20.0%	40.0%	35.0%	—	—

※2 標準財政規模 標準的な税收、地方交付税、地方譲与税等自由に使える財源の標準的な規模を表す。平成22年度の本町標準財政規模は63億8073万7千円。

決算
審議

国の
財政指標をクリア

第2 分科会

特産品の販売 イベント内容を充実せよ



町の特産品販売に全力

問 川西ブランド確立事業の内容は。

産業振興課 山形県アンテナショップ、仙山交流山形フェア、かわにし特産品フェア2010を開催し、川西町の特産品の販売を行った。

意見 各種イベントの内容を点検評価するとともに、更なる充実を図るよう求める。

問 地域企業育成・活性化支援事業の内容は。

産業振興課 川西町商工会が実施した、建設業者を対象とする営業力強化のための、3回の研修会開催等に対する補助である。

意見 受講者による実践活動などを通して、研修効果が表れるような指導をするよう求める。

問 長堀堰農業振興基金運用事業における新規就農支援の内容は。

産業振興課 新規就農者に奨励金として20万円を支援し、新規就農者の確保を図るとともに安定的な農業経営体の育成に努めた。

意見 支援期間終了後も着実に就農できるように環境整備を図るよう求める。

問 経営体育成基盤整備事業(こずく地区)の町負担はどの程度か。

産業振興課 町負担割合は事業費の10%で、財源は町債(借入金)である。借入金返済の3分の1が地方交付税に算入される。

問 浴浴センター支援事業の内容は。

産業振興課 指定管理料1100万円と、修繕維持補修費を支援し

意見 経営安定のため、状況に見合った支援内容を検討し、総合的な支援となるようにすべきである。

問 地域住宅計画策定事業の結果はどうだったか。

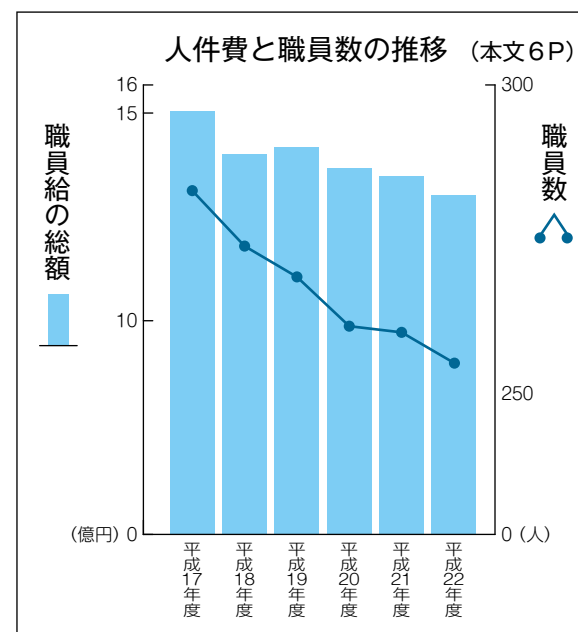
地域整備課 公営住宅等長寿(予備調査)の結果、町営平谷地住宅は公営住宅法の耐用年限を超えているため、建て替えを含め総合的に検討

問 水道事業の経営健全化計画の進捗状況は。

地域整備課 平成22年度までほぼ経営健全化計画通りに推移している。

問 高齢者賀寿事業の内容は。

健康福祉課 100歳を顕彰し、祝い品を贈った。対象者は8名。高齢者に見合った祝い品を検討するよう求める。



決 算 審 議

第1 分科会

給食の食材納入 地産地消を推進せよ



食育教育を進める学校給食、地産地消を

問 県学校給食会からの食品の納入の実態は。

総務課 米をはじめ、加工食品などが納入されている。

意見 近年の情勢から県学校給食会の役割は果たされたものと理解される。地産地

問 行財政改革により職員数、人件費の推移はどうか。

総務課 集中改革プランに基づき、年々職員数、人件費を縮減してきた。平成17年度に比し、職員給で2億179万円、13・4%減、職員数で28人減となっている。(7P表)

意見 行政サービス向上に必要な経費はしっかりと確保するよう求める。

問 新エネルギー対策事業のエコスノードームの経済効果はどの程度か。

意見 フレンドリープシステムの活用し、単年度114万円の効果を見込んだが、3カ年の平均で106万円の効果をあげている。また農産物付加価値調査を実施したが、そばの評価が高かった。

問 一時借入金の借入はどのように行っているのか。

出納課 競争見積もりを行い、利率が低い金融機関に決定し、借り入れている。

問 救急救命士の気管内挿管の実習方法は。

消防本部 公立置賜総合病院と委託契約を締結し、救急救命士の気管内挿管による気道確保の病院実習を実施している。現在7名中3名が認定されている。

問 東日本大震災に伴う被災地への緊急援助隊の派遣の状況は。

消防本部 3月11日から31日まで4次にわたり、山形県隊として延べ20名が岩手県陸前高田市、大船渡市で人命検索活動にあたった。

問 警鐘台撤去事業の進捗状況はどうか。

消防本部 民地にある警鐘台9基の基礎撤去を行い、所有者に返納した。撤去工事は完了となった。

意見 ホース乾燥塔の設置を早期に行うよう求める。

問 放課後児童クラブと放課後子ども教室は、どう推進されているのか。

総務課 児童クラブは4地域で、子ども教室は5地域で実施されている。

意見 子ども教室に比べ児童クラブの保護者負担が大きい。軽減を図るよう求める。

見過ごせない 教育長不在

緊急
質問

金子 平成19年10月1日から教育委員に就任し教育長の任に当たってきた高橋武夫教育長は、この9月末をもって退任することとなる。

しかし、その後任となる、町長が任命すべき教育委員（教育長）が決まらず不在となること。

今本町の教育行政は、緊急を要する課題が山積している。①平成24年4月からの保育所幼稚園の再編統合による「新幼稚園・美郷幼稚園」の開園②耐震問題で早期の改築が求められている小松小学校③平成25年度から再開さ

れる小学校の統廃合問題などが山積している。このような重要な時期に教育長が不在となることは、町の教育行政にとって大きな損失であり、あてはまらないこと。なぜ後任が決まらなかったのか。教育委員の「任命・同意」の問題ではあるが、教育行政の後退は許されることではないので、町長としての今後の対応について説明を求めらる。

町長 後任人事については、今議会に提案すべく鋭意努力してきたが、提案にいたらなかった。10月1日からは、教

採択

◎地方財政の充実・強化を求める請願
《請願者》
米沢市塩井町塩野1-1
日本労働組合総連合会
置賜地域協議会
議長 金子浩
《紹介議員》
高梨勇吉、高橋照夫、黒澤 巖
《審査の経過と結果》
震災により東北では多くの被害を受けた。

継続

◎原発からの速やかな撤退を求める意見書提出の請願
《請願者》
山形市香澄町1-14-7
軍事費を削って福祉・教育の充実を国民大運動山形実行委員会
代表委員 濱田藤兵衛
《紹介議員》
黒澤 巖
審議未了につき継続

表紙の写真

9月15日の玉庭小学校の稲刈り風景です。玉庭小学校では、田植え・収穫作業を全校生徒41名で行なっています。収穫されたもち米は、全校生徒で美味しく食べるそうです。

収穫当日は晴天に恵まれましたが、猛烈な暑さの中で作業となりました。子どもたちは、圃場を提供している市川さん達の指導を受け、慣れない手つきでも一生懸命に収穫作業に取り組みました。

子どもが持つ重い稲穂を見ながら、今年の豊作を祈らずにはいられませんでした。

町長に聞く

平成22年度分の決算について、特に政策的な事項を町長にたずねました

遅筆堂文庫の活用を

問 故井上ひさし先生が残された業績を伝えていくために、遅筆堂文庫の活用をどう考えているか。

町長 故井上先生の業績を後世に受け継いでいくことを目的に、追悼記念事業を行い、「井上ひさし展示室」を開設した。展示室の公開時には



町内外から多くの来館者が訪れる遅筆堂文庫

夫人のユリさんをはじめご遺族の方々にもご出席いただき、展示内容が充実しており、質が高いつの評価をいただいた。

鎌倉に残された蔵書などを寄贈いただくことになっており、寄贈者である故井上先生とユリ夫人の意向を大切にしていきたい。

今後も、劇場と遅筆堂文庫、町立図書館が一体となった複合文化施設としての特徴を生かし、町内外からの来館者の増加を図りたい。

意見 ご遺族との関係を大切に、山形館、仙台文学館等関係施設と連携を図り、遅筆堂文庫の利活用を促進するよう求める。

早期に消防庁舎の整備を

問 消防庁舎の暖房用ボイラー、給湯ボイラーの老朽化を早期に改善すべきでないか。

町長 消防庁舎は昭和54年に建設し32年経過している。これまで屋上漏水工事、トイレ改修、通信室増設、庁舎前消雪化など施設の整備を進めてきた。

暖房用ボイラーについては、常時使用していないが、仮眠室は冬期仮眠に入る前2時間程度、車庫は救急車帰署後の凍結防止のため、会議室は会議時間のみ運転している。待機室、事務室はブルーヒーターで暖をとっており、業務に支障はない。ただ32年が経過しており、

交換部品がないので更新整備が必要と考えている。

給湯ボイラーは平成20年度に石油給湯器に切り替えているので支障はない。

意見 消防庁舎の整備については、広域化前に早急に補正予算などで対応するよう求める。



消防広域化を前に庁舎の整備が必要

一般質問

災害に備え万全の体制を



遠藤章一 議員

町長―計画的に対応を検討

遠藤 町防災計画の住民に対する周知は怎么样了っているか。

町長 今年度中に概要を作って配布し、防災意識の向上、万が一に備えた対応ができるよう計画している。

遠藤 各地区に自主防災組織がつくられたが、その内容において、大きな格差が生じている。防災に対しては、住む地域において差があるとは思えないか。

町長 町内全域において等しく万全の体制を整えられるよう、防災設備や避難経路、避難所の明示など、各地区の均衡が図られるよう対応したい。

遠藤 避難場所に指定された小学校など、更には物資提供をお願いしている商店などの連携はどうなっているか。

町長 避難場所に指定している小学校などとの連携については、備蓄資材などを年

次に整備する計画だが、まだ進んでいない状況であり、今後各地区自主防災組織や学校などと調整を図り速やかに配備したい。

物資確保については、町商工会やJA山形おきたまおよび山形県生活協同組合連合会と協定を締結し、災害時に優先的に物資を供給していただくこととなっている。一定程度物資を常備する必要があると認識している。

緊急雇用後の取り組み

遠藤 単年度雇用を図る「緊急雇用事業」、最長3年間の雇用を支援する「ふるさと雇用事業」などの期間終了後の就職の状況はどうなっているか。

町長 「緊急雇用事業」後の就職については、多くのかたがたが一定の再就職を果たしている。「ふるさと雇用事業」の期間終了は、実



避難訓練も真剣そのもの

定例会2日目に、5人の議員により一般質問が行われました。その内容を要約してお知らせします。

施団体が継続雇用することが原則となっているが、実態としては継続雇用は厳しい環境と認識している。

町長 まちづくりの視点でこれまでの取り組み内容を評価し、推進方法を検証する必要がある。指定管理料についても検討したい。

その他の質問

- 学校給食の今後について
- ① 食材の地元納入
- ② 小松小学校の給食の在り方
- ③ 学校給食会の必要性

民間保育所と医療モール 住民のニーズに応えられるか

町長 ― 需要の高い保育施設に期待

淀 働いている若い母親のニーズに応える民間の保育施設が求められている中、町に民間の認可保育所と小児科、歯科、整形外科を備えた医療モールが併設される計画が浮上し、行政の手腕が問われ緊急課題にもなっている。この計画はヤマザワ側が木造平屋建と2階建ての棟続きを建設し、賃貸するものである。

0歳児から2歳児まで30人が入所できる保育所を中心に、医療モールが併設されての運営とはいえ、国と山形県、それに川西町の補助金を合わせると毎年

おおむね4000万円。この内、町は1200万円を負担することになる。

新設される認可保育所についてどうか。

町長 公立の保育所に44人を受け入れているが、需要の高い0歳児から2歳児までの保育施設として期待されている。

淀 新設の保育所に3人まで受け入れる病児保育を備え、小学3年までを対象にカゼなどを発病した子どもを一時的に預かることができる。

新設保育所は来年4月に、各医院は7月にオープンを目指してい

る。新設保育所には町内の会社が最近設立した「美女木げんき保育所」に決まったようだが、各医院の事業者はどうなっているか。

町長 現在、計画に賛同してくださる医師の確保の調整を行なっているようである。町としては今後、医療環境の向上に期待している。

淀 町の人口が減少し続ける中、町内には歯科医院が5つある。モール内に新設される歯科医院に対する考えはどうか。

町長 町の地理的優位を踏まえた広域的な視点に立った構想



保育所と医療モールが予定されているヤマザワ東側（点線内）

であり、多様な診療体制の実現の面ではメリットがあると思う。

淀 行政のスリム化と民間への移行は表裏一体であって、将来に向けた行財政改革の大切な要因である。しかし、行政は現実の対応とのギャップを埋めるため、きめ細かい配慮を願う。

一般質問



橋本欣一 議員

町長自ら脱原発・卒原発宣言をすべき

町長―原発に頼らない、再生可能なエネルギーを推進

橋本 吉村山形県知事が「卒原発」を提唱し、風力・太陽光・水力といった再生可能エネルギーの地域導入を強力に進めることを表明した。町も積極的

の制度を利用するには、認定農業者や生産調整達成者などの条件があるが、町内生産者であれば無条件にしてはどうか。

町長 風評被害の払拭や本町農業の振興を図る観点から、実需者に対し直接販売する生産者を事業実施主体に設定した。

町長 折に触れ、関係機関に訴えていきたい。

橋本 町は放射能検査に補助（川西町産農畜産物安全安心販売支援事業）を行うことにした。しかし、こ

改定介護保険法と介護事業計画は
橋本 今国会で成立した改定介護保険

町長 詳細が国から示されていないので判断できない。これまでの高齢者福祉サービスに加え、地域資源やマンパワーの活用な

町長 このサービスを導入するかどうかは、人材・運営面での実施の可能性と効果

橋本 介護職員の医療行為（痰の吸引、経管栄養など）が解禁となる。医師や看護師

町長 安全確保のため安全確保に十分留意いただきたいと考える。



町内でも放射能測定が行われている。人体に影響はない。

手続きに5年間は長すぎ

町長―都市計画見直し決定は27年3月

高橋 平成23年度から10年間で計画期間とする、第4次国土利用計画を本年3月に定例会において議決した。この計画後は、新たな都市計画地域の指定、農業振興地域の見直しなどの作業がある。これらの作業は早急に進めなければならない。作業の遅れは、町のあらゆる計画に悪影響を及ぼすと考えられる。具体的なスケジュールを示してほしい。

町長 都市計画区域見直し作業の進捗状況であるが、三つの基本方針に基づいて進めていくこととしている。

特に本町で見直すべき地域としている小松駅東地区においては、フレンドリープラザ建設や美女木ニュータウンの造成、商業施設などの進出が進められてきた。

大塚地区では、公立置賜総合病院が開院したことに伴い、関連施設、住宅や店舗などの開発が進められてきた。今後、国道113号梨郷道路や国道287号川西バイパスの整備促進に伴い、人口集積、商業施設の開発が見込まれる。

見直しに当たっては、マスタープランの作成、計画区域の設定、計画

高橋 計画の決定はいつになるのか。
町長 26年度に都市計画用途地域見直し手続きに入り、27年3月に計画が決定する見込みである。

高橋 準備手続きに5年の長期間を要することは理解しがたい。スピードアップを望む。

町長 さまざまな角度から検討した結果、6月6日から8月5日までの2カ月間3名の職員を派遣し、行政機能回復に向けた支援を行ってきた。本町として十分な協力をするのができたものと思っている。

高橋 大槌町の災害支援に職員3名を派遣した。派遣された職員の皆さんには、心から労をねぎらいたいと思う。



新たに都市計画指定が予定される公立置賜総合病院周辺

※経管栄養
経口摂取が不可能あるいは不十分な患者に対し、体外から消化器内に通したチューブを用いて流動食を投与する処置をいう。

一般質問



齊藤智志 議員

町の大々的な「まつり」の復活を求める

町長―生きる喜びを共有できる祭りを目指す

齊藤 まつりやイベントは、そこに住んで

いる人々の歴史と伝統・文化を刻む大変重要な役割を担ってきた。また、まつりは、そこで生まれ育った人々にとっては「ふるさと」でもあり、友達や愛すべき人との出逢いの場でもある。まつりが消えることにより、町が、ふるさとが衰退する。町のまつりは、平成16年から消えてしまった。

町長

昨年町民の方10人で検討委員会を立ち上げ、まつりのあり方を協議していただいた。その報告を基に、役場内に「川西まつり研究プロジェクトチーム」を立ち上げ、まつりのあり方を取りまとめた。結論的には、町が誇

れるダリヤの期間中に、従来のイベントに加えて新規創造的なまつりの要素を加えたもの

にしたい。しかし、具体的な内容に絞り込んだ提案までには至っていない。町長にとって「まつり」とは、「まつり」の役割とは何か。

齊藤

町長に、「まつり」とは、民族芸能や伝統文化を通じ、世代を超え生きることの喜びを共有し、人々とのつながりを確かめたい。

合う絶好の機会であると考えている。

また、まつりが地域・町のコミュニティの形成に果たしてきた役割は大きい。同時に、町の観光ピーアールと経済効果など多面的な役割を持っている。

齊藤

町が担う「まつり」の役割とは何か。まつりの再興を提案し、関係団体や各地区の理解と協力を求め、多くの町民がまつりに参画、協働

できる機運を醸成し、協力体制の整備や支援を行っていく。

齊藤

町民の心がひとつになれる大イベント「まつり」を実施すべきである。

町長

まつりには、特徴や課題がある。まつりの内容、実施体制、規模、継続性等について十分検討し、町民の心が一つになれるまつりをつくってきたい。

齊藤

町伝統芸能である「川西奉賛獅子舞」を大イベントに盛り込むべきと思うがどうか。

町長

勇壮かつ迫力のある獅子舞は、多くの踊り手が必要とし、特に若者が力を発揮する場でもある。

しかし、社会経済情勢が変化し人材の確保に苦慮されていると聞いている。各神社などの関係者の皆さんと十分協議し、報告書に基づき川西町らしいまつりの実施について検討する。



老若男女が集った犬川の夏まつり

正算補予

農地・水環境保全

向上活動に支援決定

主な内容

農地・水環境保全向上対策事業

これまで取り組んできた農地・農業用水などの日常的な保全管理の活動（共同活動）に加え、老朽化が進む農地周りの水路、農道等の長寿命化のための補

修・更新など（向上活動）を行う集落に対し追加支援を行う事業。5年間継続して実施される。

認可保育所施設整備事業

24年4月から「病児、病後児保育」と共に、0歳児から2歳児までを対象とする認可保育所がオープンすることとなった。

門前大川駅前線道路改良事業

小学生の安全な通学道路の確保を求め、犬川地区環境整備部から長年にわたり要望のあった道路拡幅工事が年度内に完成となる。

全員賛成により可決



向上活動を支援する農地・水環境保全事業、今後はコンクリート水路整備もできる

各地区別農地・水保全管理支払向上活動支援交付金

	組織数	対象農地面積	交付金額
小松	1	6,427a	280万1千円
大塚	1	9,135a	399万5千円
犬川	1	9,328a	408万1千円
中郡	6	17,558a	766万9千円
玉庭	7	5,907a	255万4千円
東沢	1	5,016a	216万6千円
吉島	1	15,838a	680万4千円

平成23年度補正予算の主な事業

農地水環境保全向上対策事業	1,837万円
景気浮揚対策補助金（プレミアム商品券）	500万円
冬季交通確保事業（除雪機械修繕料等）	5,637万円
在宅福祉支援事業（高齢者世帯雪下ろし作業費）	67万円
合併処理浄化槽設置整備事業（設置費補助金）	502万円
認可保育所施設整備事業（民間立保育所への補助金）	1,300万円
地区センター管理運営費（工事費）	841万円
置賜公園等観光施設管理経費（工事費）	453万円
門前駅前線道路改良事業（工事費）	1,500万円
小学校プール修繕事業（工事費）	445万円
公共土木施設災害復旧事業（工事費）	400万円

6次産業化の本格的
取り組みに向けて委員会
レポート

8月3日～4日、本町が今年度から本格的に6次産業化に取り組むことを受け、先進地視察を実施した。

視察先はパンの製造販売を行なっている山形県新庄市の企業組合「米工房」、道の駅と直売所、レストラン、加工施設を一体化し入り口を一つにした秋田県横手市の「(株)十文字リーディングカンパニー」、道の駅、直売所、加工施設、研修施設を持つ秋田県本庄市の「(株)ほっといん鳥海」の3カ所の視察を行った。



熱烈な指導を受けた道の駅「十文字」

今回の視察において学んだことは、①事業に対する情熱がいかに大切であるか ②販売に対していかに食欲であるか ③従業員教育の大切さ ④企画力、アイデアの重要性である。

特に、①については、事業の成否において最も重要なことと痛感させられた。視察先での社長や代表の情熱に圧倒された場面もあり、このような社長や代表のもとには、優秀な人材が集まり、事業の成功に結びつくと感じた。



自主防災組織率100%を誇る十日町市を視察

新潟県中越地震の際の経験と近所付き合いが残っていたことや、県の災害積立金の利子運用での補助が組織化の促進を早めた。

課題としては、防災資器材などのハード面では充実したものの、リーダーが少なくどの組織も運営が大変である説明を受けた。

食糧・物資の備蓄は当時としてはなかったとのことであったが、現在は、倉庫の確保や賞味期限の問題で「流通備蓄」に変えているとのことであった。

当町もしっかりと防災意識を持つことが大切であることを教えられた研修であった。

意見書

日本海国土軸
整備をはかれ

完成した国道113号線梨郷道路（宮内地内）日本海国土軸の整備が求められる

◎日本海国土軸の構築と社会資本整備を求める意見書

東日本大震災では、社会資本整備が太平洋側に偏り、東北地方における災害時のリスク分散や代替機能の確保が不十分であることが浮き彫りとなった。

今後は、日本海側の

◎地方財政の充実・強化を求める意見書

①被災地の復興費は、国の責任において確保し、自治体に負担をかけること。

②医療、福祉分野の人材確保や農林水産業の再興、環境対策など財政需要に耐え切れる平成24年度の地方財政計

物流機能の重要性を認識し、バランスのとれた社会資本の整備が必要である。

日本海側と太平洋側の国土軸を情報通信、物流・エネルギーの分野で均等に整備することにより、強固な経済基盤がつけられる。

全員賛成により可決

画、地方交付税総額を確保すること。

③地方自治体の財源を確保するため、国と地方の税収配分を5対5とする税源移譲を求め、地方交付税の確保、地方消費税の充実および国の直轄事業の地方負担を見直すこと。

全員賛成により可決



広報モニターから
ひとこと ⑨
小松地区 高橋 文一さん

今回の議会9月定例会で、5名の議員がさまざまな角度から、それぞれの持ち味を出して質問する様子を傍聴した。

川西町が抱える課題や、住民が知りたいと

思っている問題について質疑が交わされたが、いずれも予算が絡む内容が多く、明解な回答が簡単には出せない事情がうかがえた。また、住民の知る権利に対しても、公表するタイミングの難しさを理解することができた。

今までは「議会だより」で結果だけを見聞きするだけだったが、質問する議員も回答する町のかたがたも一生懸命な様子を感じられ、大変良い経験をした。

これからも、道路整備や土地利用、また産業誘致や宅地計画など、近隣の市町と連携した行政を遅滞なく行い、住みやすい町づくりを進めてほしいと願う。

その中で心豊かに子育てができるよう、今後議会傍聴などを通して行政を注視していきたいと思う。



壊滅的な被害を受けた大槌町の中心部

7月11～12日、原田町長、齋藤議長、議会震災対策会議の役員など8名で、大槌町の仮設庁舎を訪れ、被災状況を視察した。

対策 対会

岩手県大槌町へ 現地訪問し義援金を送る

大槌町の東梅参与（前副町長）以下関係者に対応していただいた。

川西町からの義援金を送り、大震災発生以

降の経過などについて伺った。

3月11日、巨大地震を起因とする大津波により、大槌町は町中心部が壊滅的な被害を受けた。保護者の迎えがあった一部の児童が、下校途中で車ごと津波にのみこまれ犠牲となるなど、悲惨な被害状況であった。

町の災害対策本部を役場前で開催中に津波が襲い、町長以下幹部職員、庁舎3階まで到達できなかった職員30数名が犠牲となり、庁舎も使用不能に陥り行政機能が麻痺した。川西町では、故井上ひさし先生との縁でゆかりのある大槌町への

支援を決め、職員3名を2カ月間派遣し、戸籍関係事務、選挙関係事務について支援を行った。一日も早く本来の姿に復旧する上で、大いに有効であり、また今後の両町の友好関係の発展、交流の拡大に向け、意義があったものと考えられる。

復興に向けて

大槌町は、復旧・復興に向けて仮設住宅2千戸を設置する予定である。また、津波被害を避けるため高台に移転用地を設けたいが、山林面積が9割で可住面積が少なく、適地探しに苦慮していた。電気・水道は復旧し

たが、働く場の確保が当面の課題で、復興には「復光」の文字を当て、光り輝く復興を目指しているとのことであった。

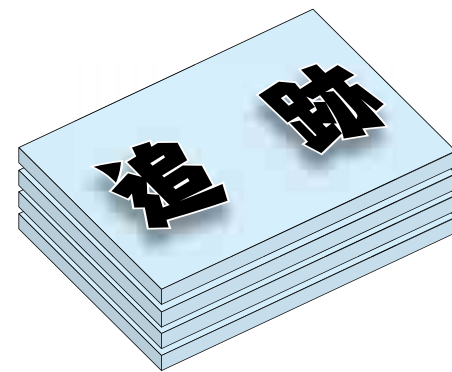
川西町として、今後も復興への支援を継続していきたいものである。

人事

第3回定例会初日、本会議（9月6日）に黒沢巖議会運営委員会委員長が、一身上の都合で職を辞したため、新たに、議会運営委員会委員長並びに予算特別委員会委員長を選任した。

◎議会運営委員会
委員長高橋建一議員
◎予算特別委員会
委員長高梨勇吉議員

まちの未来が見える
議会傍聴においで下さい
手続きは簡単
次回の定例会は12月です



あれから……
どうなった！

防災対策は万全か



自主防災組織と連携した総合防災訓練

川西町では、新潟県中越地震を契機として、平成17～23年度に全町

7地区で自主防災組織が設立された。災害発生時に、自分

全町7地区による 自主防災組織連合会を設立

のことは自分で守る、地域のことは地域で守るといったことが行われることにより、行政機能が正常になるまでの間、被害を最小限に食い止めるために果たす役割が大きいとされている。

町では、平成22年度にこれまでの計画の全面見直しを行い、新しい「川西町地域防災計画」を策定した。

この計画によれば自主防災組織の主な業務は次のとおりである。

①初期消火、救出、救護、避難訓練などを積極的に行い、組織内住民に対して防災知識の普及や出火防止の徹底を図ること。

②災害に対応するための組織化を図り、消火、救助、炊き出し資材などの整備および非常用食糧の備蓄を図ること。

③地域内の危険箇所、避難経路を点検、把握し周知すること。

④地域内住民の連携を強め、住民間の支援体制を確立するよう努めること。

⑤行政および地域内企業・事務所との連携協力体制を整えること。

本町では、毎年地区まわりで自主防災組織も加わり、総合防災訓練が実施されている。今後7地区による川西町自主防災組織連合会合同会議（仮称）が予定されている。

市民の声



❖ プロフィール ❖

なかの みどり
中野 緑

白鷹町出身、犬川在住。
夫と6歳の娘と4歳の息子、
夫の両親と同居。
家族の協力を得て仕事と子育ての
両立に頑張っている。

白鷹町立病院に勤務する看護師の中野緑さんに、医療のあり方や子育てについて聞きました

川西町の医療制度全般について望むこと

今年の6月から川西町でも「子育て支援医療」が開始になりました。この制度により、0歳児～中学生まで医療費が無料化になったわけですが、このことは子供を持つ親にとっては大変ありがたい制度だと思っています。

ひとつ欲を言うなら「予防医療」に力を入れてほしいと思います。どんどん新しい病原菌が発見されている現代ですので、これからは「病気になる前からどうすればいいか」ではなく「病気になるにはどうしたらいいか」が大切になってくると思います。

現在いろいろな予防接種がありますが任意のものが多く値段も高く気軽に受けられるものはありません。行

今後川西町で大切にしたいことは

政から助成があれば予防接種を受ける率も上がり感染予防にもつながるのではないでしょう。これから寒くなリインフルエンザなどの流行も心配ですしね。

わが家には6歳と4歳の子どもがいて普段は祖父母にみてもらっています。考えてみれば子どもたちは、あじさつの仕方や人との接し方など大切なことは祖父母から教えてもらったように思います。



仙台市八木山動物公園にて

また、私が嫁いできていろいろとわからないことがあったとき、教えてくださったのは地域の方々でした。こうした世代を超えたつながりを絶やさずいてほしいですね。

川西町の印象をお聞かせ下さい

私の実家は白鷹町ですが白鷹町と比べ自然の豊かさはあまり変わらないのに空の美しさにびっくりしました。特に冬の空は空気が澄んで星がきれいで私のお気に入りです。

編集のあとで

▼山形県は、米の放射性物質検査の本調査を9月中旬に行った。▼調査は、県内231地点で行われ、結果は全ての調査地点で放射性セシウムは検出されず、23年県産米の出荷自粛は「解除」された。▼今、全国民は、原発事故発生後、放射能という「幽霊」によって翻弄されている。▼日本政府は、国の責任において「原発・放射能汚染」の真実を国民に伝える義務がある(さとし)

発行責任者 齋藤 修一
委員長 佐々木 賢一
副委員長 斉藤 智志
委員 高橋 輝行
同 高橋 照夫
同 高橋 建一
同 遠藤 章一
アドバイザー(文章) 小林 伸也
アドバイザー(写真) 近野ユキ子
アドバイザー(写真) 阪野 吉平
青木 督平
鴨 源一